

令和2年度 第3回大阪府立泉北高等学校 学校運営協議会 議事録

- 日時：令和3年2月5日（金） ただし、書面送付により意見集約を行う
- 運営協議会委員
  - 綿野 哲（大阪府立大学 工学域長）、中谷 浩治（堺市立若松台中学校校長）
  - 中村 俊一（立志館ゼミナール館長）、池内 博一（追手門学院大学 准教授）
  - 中村 幸美（泉北高校 PTA 会長）、向井 久仁子（泉北高校後援会 会長）
- 資料について、メールでいただいたご意見は以下のとおり（表記については一部訂正済み）
  - 学校教育自己診断結果については、分析課題におおむね賛成。生徒から見た授業改善が5%も上昇していますが、コロナ禍にあつて ICT などによる教員の教授法の試行錯誤を生徒が好意的に受け取っているようで、素晴らしい。
  - 叡啓大学への2名の合格は、進路指導の成果と言える。安全志向が摂南大学の公募推薦の結果から見て取れる。指定校推薦で関学・関大への多数出るとは、一般入試の難しさから考えると良い。
  - SSH 取り組みは相変わらず素晴らしい。SSH の伝統校として継続できることを願う。SGH がなくなつたが、「SDGs 未来高校」への意気込み、堺市や南区との連携など、独自の視点で社会とかわる発想こそが、これからの社会を形成するうえで大切なことで、大変誇らしい取り組みである。地域に根差した視点・活動は、地元を活性化させる上においては意義深い。
  - コロナ禍の中、様々な行事の簡素化や変更・中止を余儀なくされている状況ではあるが、安全第一に生徒たちが心身ともに成長し充実した高校生活を送ることを願う。
  - 計画では挑戦してほしい資格として TOEFL および英語検定のほかに TOEIC も挙げているが、目標資格として TOEIC は掲げないのか。
  - 関関同立180名以上が目標となっているが、立教大学合格者も出ているので、MARCH を含んで180名以上としてはどうか。
  - コロナ後の教育方法として、緊急時のみならず平時にも実施できるようなオンライン授業の体制整備を進めてはどうか。
  - オープンキャンパス参加について各大学でオンライン OC を実施するようになってきているが、それは2年生の参加実績としてカウントされないのか。
  - いじめについては支援会議やいじめ防止対策委員会、アンケートなどを実施しているが、SNS 上のいじめ、部活の先輩による後輩いじめなどは表面化しにくい面があると思われる。アンケート結果だけに頼らず、担任や部活の先生などが学生の態度や人間関係を日々の学校生活の中で注視してあげてほしい。
  - 学校教育自己診断アンケート項目8（国際交流の学習機会確保）について、今年度の悪条件を考えると（満足度が下がったことは）いたしかたない結果であると思うが、それだけ泉北高校が継続している教育活動への、生徒や保護者からの関心や期待の大きさを感じた。
  - 学校教育自己診断アンケート項目11（適切な進路指導）について、教育課程を履修し、特に3年生が不利益を被ることのないよう必死に取り組まれた様子が感じられた。
  - 学校教育自己診断アンケート項目13（いじめの対応）について、学校側と家庭側の見解の相違は、学校側の立場に立つようですが、生徒や保護者にそのような部分に関心がない（懸念されるような事態がほとんど発生していないなどの理由）ため、実際に起こった事案さえ知らずに終わっているため「取り組んでもらった」という意識が低いのではないのか。
  - （テレビ番組で、ある府立高校の取り組みを放送されているのを見て）それぞれの高校には別々の課題や使命があると思うが、核心に触れるような取り組み、あるいは生徒のニーズに叶う取り組みだったからこそ、結果につながるのではないかと感じた。泉北高校で学びたいと強く願う中

学生が増えるような取り組みや地域社会へのアピールを今後期待したい。

- 学校運営の基本方針に関しては特に意見はないが、国公立大大学への進学目標と、達成成果との乖離には、少々気になる所がある。今後、機会があれば、対応策についてご検討頂きたい。

○令和3年度学校経営計画について

すべての委員の皆さまより承認を受けた

○ 送付資料

- (1) 令和2年度 学校経営計画及び学校評価（案）
- (2) 令和3年度 学校経営計画及び学校評価（案）
- (3) 令和2年度 学校教育自己診断結果
- (4) 令和2年度 第2回授業アンケート結果
- (5) 第50期生（現3年生）入試の合格状況（1月末現在）
- (6) SSHの取組みについて（SSH課題研究中間発表会冊子含む）
- (7) 国際文化科「探究（課題研究）」成果発表会 発表用ポスター（一部）